

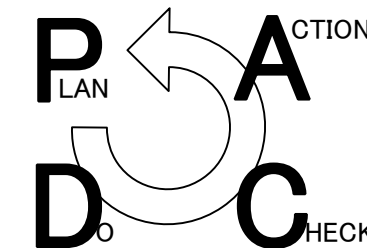
政策名	1グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策名	01国際・国内海上輸送機能の強化		
個別施策名	04在来貨物等取扱機能を充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船社、港運					
	サービスの対象物(何を)	公共在来・フェリー岸壁、荷さばき地、保管用地					
	意図(どういう状態にしたいのか)	在来貨物等が効率的で円滑な取扱がされる					
内容	近年、コンテナ貨物輸送が進展する一方で、在来貨物やフェリー貨物輸送の重要性は今後も不変であると考えられます。輸送効率を向上させるため、在来船の大型化傾向への対応や環境負荷の少ない輸送モードであるフェリー施設の充実などを図ることにより、在来貨物等が効率的で円滑に取り扱えるようにしていきます。						
目標	公共在来ふ頭・フェリーふ頭での貨物取扱量の増加を図ります。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量の減少 高速道路の料金体系見直し政策					
成果指標名		単位	実績			目標	指標の説明(式)
			H19年	H20年	H21年	H24年	
外貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績目標	千トン	3,953	3,833	3,157	4,000	・目標値は、直近の最高実績値への回復を目指して設定 ・コンテナは含まず
	達成率	%	98.8	95.8	78.9		
内貨在来貨物量(公共) ※完成自動車除く	実績目標	千トン	4,292	4,697	3,520	4,700	
	達成率	%	91.3	99.9	74.9		

4. ACTION(取組)

取組の方向性				
成果	拡大		○	
	維持			
	縮小			
		縮小	維持	拡大
コスト				
判断の理由				
中部地域の産業を支える総合港湾として、国際バルク戦略港湾の選定を目指すなどして集荷拡大を図る必要があるため。ただし、フェリー事業支援や土地のあり方については、具体的な需要を見極めて進めるべきであり、拙速な事業進捗を避けるべきと考えています。				



3. CHECK(個別施策の実現に向けた今後の展開方向)

現状における課題認識	
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界同時不況による在来貨物の貨物減少は21年2月を底に、回復基調にあり、落ち込み前の水準に近づきつつあります。</li> <li>長距離フェリー輸送は、高速道路無料化等の施策が利用者動向に影響しており、動向を注視する必要があります。</li> <li>フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画の策定)は、世界同時不況から港湾計画の基本となる貨物量等の計画指標を定めるのに時間を要しており、計画策定の手続きの時期を見極めていきます。</li> <li>稲永ふ頭ふ頭用地のあり方、整備手法、財源確保についての関係者とのさらなる調整が続いています。</li> <li>現在、国において進められている国際バルク戦略港湾の選定に向けた対応を図っていく必要があります。</li> </ul>	
構成事務事業の適正性 (事務事業の構成内容の妥当性)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>稲永ふ頭ふ頭用地整備事業は、フェリーふ頭将来計画の策定(港湾計画の策定)と合わせて、複合一貫輸送対応の内貨ターミナル用地基盤施設整備という事業についての整理が必要です。</li> </ul>	
今後の展開方向 (新規事業の創出、事務事業の見直し等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>長距離フェリー輸送はモーダルシフト推進の観点から重要な施策です。政府による高速道路の料金体系見直し政策が打ち出されていますが、今後の国の施策や需要動向、必要財源及び費用対効果を見極めた必要な対応を図ります。</li> <li>港湾計画の策定については、改訂の時期を関係者と調整していきます。</li> <li>国際バルク戦略港湾の選定においては、対象ユーザーと連携を図りながら対応していきます。</li> </ul>	

2. DO(個別施策を構成する事務事業の今後の方向性)

重点化	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な成果指標 又は活動指標 (単位)	成果・事業費(千円・人件費込)				目標値 (目標年度)	21年度 末まで の状況	今後の方向性		判断の理由	
				H19年度	H20年度	H21年度	H22年度			事務事業 の 方向性	取組の方向性		
				実績	実績	実績	目標				成果		コスト
	西部木材港再編計画の策定 (港湾計画の策定)【再掲】 (1010401)	木材流通の動向ならびに、木材港及び隣接する木材団地の将来のあるべき姿を調査研究し、西部木材港地区の土地利用を検討します。	策定進捗率(%) (上段:単年度、下段:累計)	20 20	6 26	4 30	40 70	100 (H23)	遅れ			【本掲】「09ロジスティクス機能を拡充する」 (コード1020904)において評価	
	フェリーふ頭将来計画の策定 (港湾計画の策定) (1010402)	フェリー需要の動向を踏まえ、利便性向上のための検討を行います。	策定進捗率(%) (上段:単年度、下段:累計)	20 20	6 26	4 30	40 70	100 (H23)	遅れ	継続	➡	物流の環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂に向けて着実に準備するため必要があるため。	
	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業 (1010403)	複合一貫輸送に対応した内貨ターミナル用地の基盤施設整備 規模:7.1ha	事業進捗率(%) (上段:単年度、下段:累計)	0.6 77.8	1.5 79.3	0.5 79.8	0.0 79.8	100 (H25)	順調	継続	➡	事業実施に応じた整備を進める必要があるため。	
○	飛島ふ頭(西)ふ頭用地整備事業 (1010404)	荷捌き施設及び保管施設としての機能強化のための貯木場埋立 規模:6.1ha	事業進捗率(%) (上段:単年度、下段:累計)	1.3 20.5	2.4 22.9	1.9 24.8	0.4 25.2	100 (H24)	順調	継続	➡	具体的土地需要が未だ定まらないなかで状況を勘案して事業進捗を図っていくため。	
注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。				施策コスト (事業費合計)	58,040	122,070	67,574	12,194					

注)目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の間目標として設定しています。